若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）の取り組み

若狭湾サイクリングルート推進協議会　桑原景子、定友敦、岸野祐二郎、小泉奈津妃

「若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）」とは

2024年3月北陸新幹線の福井・敦賀開業、2025年大阪・関西万博開催と、福井県は誘客の大きなチャンスを迎える。
この好機に嶺南地域への誘客を図るため「JR敦賀駅」から「JR若狭高浜駅」までの6市町を結ぶ「若狭湾サイクリングルート」の整備を決定。
ナショナルサイクルルートの指定を目指して環境整備、情報発信に取り組んでいる。

2024. 3.16　北陸新幹線敦賀開業

（つるが　わかさ）
テーマ：「敦賀若狭の海湖(うみ)を楽しむ！！」
ルート：JR敦賀駅からJR若狭高浜駅までの6市町を結び、主要観光地を巡るルート　（敦賀市・美浜町・若狭町・小浜市・おおい町・高浜町）
総延長：126km

官民連携の「若狭湾サイクリングルート推進協議会」(R3.6設立)

福井県、嶺南6市町、観光団体、商工団体、学識経験者、サイクリング協会、国、JR西日本、警察など25団体で構成
（アドバイザー：㈱ARCH・ヒーロー北海道、㈱モンベル）

【愛称】わかさいくる

【ロゴマークデザインコンセプト】
自転車のフレームを若狭湾の「W」に見立て、外国人にもわかりやすくデザイン。5つの半円は波と若狭湾の「W」を表し、海辺を走り抜ける疾走感と楽しさを表現

「福井県自転車アンバサダー」

自転車観光の魅力や情報を全国に強くPRする「福井県自転車アンバサダー」を設置。
福井県出身で元プロロードレーサーの**中島康晴**氏に委嘱。
なかじま やすはる

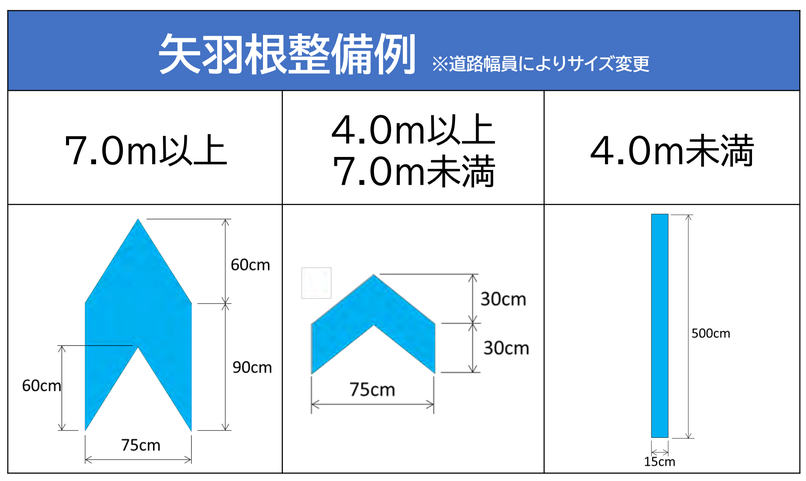
走行環境についての取り組み

○路面表示、案内看板等の整備

車道上に矢羽根等の路面標示、統一的な案内看板等を整備（2021年～）※看板レイアウト：福井工業大学デザイン学科 近藤研究室

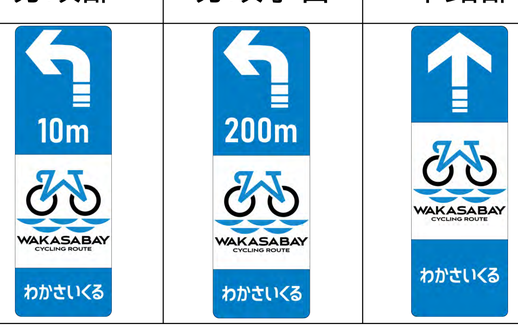
矢羽根整備例 ※道路幅員によりサイズ変更

7.0m以上	4.0m以上 7.0m未満	4.0m未満



案内看板レイアウト(W15㎝×H45㎝)

分岐部	分岐予告	単路部



注意喚起看板レイアウト
(W30㎝×H45㎝)

受入環境・情報発信についての取り組み

○地域の機運醸成、受入体制の強化について

- 事業者向けのワークショップ、地域住民セミナーの開催
- 自転車を楽しむ会開催
- サイクリングガイド養成講座、モニターツアーの実施
- 「わかさいくるサイクリストに優しい宿」の認定、整備支援（2023年～）（認定22施設）
- 「自転車の駅」の設置（2023年4月現在 嶺南68か所）、スタッフ研修の実施
- シェアサイクルやレンタサイクルをルート上の全市町に整備

自転車の駅
Cycle Station
福井県　美浜町
Fukui Pref. / Mihama Town

○情報発信、他県との連携

- SNS（Instagram、X（旧Twitter）、Facebook）運用（2022.6～）
- 多言語に対応したHP・マップの作成（2023年～）
- 滋賀県とのプレスツアーや北陸3県デジタルスタンプラリー、共同ＰＲ等を実施

SNS・HP →

○地域のちからプロジェクト（資源エネ庁、近畿経産局）

- WEB調査事業、サイクルモードライド大阪への出展、自転車専門誌での紹介　等

○原発廃材のリサイクル金属を活用したサイクルスタンド「わかさいくるスタンド」をルート周辺10か所に設置　（資源エネ庁実証実験）

ワークショップ

サイクリングガイド養成講座

国内モニターツアー

外国人モニターツアー(R4)

わかさいくるスタンド

サイクルモードライド大阪

若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）の取り組み

若狭湾サイクリングルート推進協議会　桑原景子、定友敦、岸野祐二郎、小泉奈津妃

○自転車を楽しむ会

・地域の方に自転車に親しみを持ち、サイクリングの楽しさや地域の魅力を味わっていただくことを目的として、福井県嶺南地域の6市町において10～20kmのコースをゆっくり走る「自転車を楽しむ会」を開催しています。
・これらのコースは「わかさいくる」のサブルートとしても楽しめます。「自転車を楽しむ会」で実際に走行したルートのポイントを参加者の感想とともに紹介します！（※写真は自転車を楽しむ会以外で撮影したものを含む）

おおい町

○ルートのポイント
・JR若狭本郷駅を起点とした約18kmのルート
・車通りの少ない田んぼ道や佐分利川沿いを気持ちよく走ることができる。
・古民家をリノベーションした暮らしの複合施設hibiでは、自家製の梅ジュースやおいしいスイーツを味わえる。

☺ 川沿いや田んぼの中を走ることができて気持ちよかった。

☺ 平坦なコースで走りやすい。立ち寄ったお店の雰囲気が良かった。

高浜町

脱輪してしまった地元住民の車を発見！参加者で力を合わせて救出。

○ルートのポイント
・高浜の美しい海を楽しむ約18kmのルート
・ビーチの中を自転車で走ることができ、潮風を感じながらサイクリングができるのが魅力。
・UMIKARAでは水揚げされたばかりの新鮮な魚介を使った食事やお土産が充実している。

☺ 海を間近に感じながらサイクリング出来て楽しかった。

☺ 和田ビーチは砂があったので少し走りづらかったけど、珍しくていいと思った。

小浜市

○ルートのポイント
・JR東小浜駅から出発する約14kmのルート
・古くから地元の人々に守られてきた歴史ロマンあふれる寺社仏閣を巡ることができる。
・鵜の瀬は毎年3月に奈良の東大寺で行われる「お水取り」のための「お香水」を送る「お水送り」の神事が行われることで有名。

☺ 電動アシスト付きだったので思ったよりも楽に走れた。

☺ 上り坂が大変だったけど、下りは風が涼しくて気持ちよかった。

若狭町

○ルートのポイント
・三方五湖を1周する「ゴコイチ」として親しまれている約35kmのルート
・漁村の雰囲気漂う日向湖や7万年分の年縞が発見された水月湖など、水質も特徴も異なる5つの湖の間近を走ることができる。
・走りやすいので初心者の方にもおすすめ。

☺ 湖面ギリギリのところを走ることができて新鮮だった。

☺ 景色や雰囲気の変化に富んでいて、他では味わえないゴコイチならではの魅力を感じた。

敦賀市

○ルートのポイント（R4年度ルート、R5.11月予定）
・来年3月に開業する北陸新幹線の終着駅となるJR敦賀駅から始まる約9kmのルート
・街中をゆっくり走りながら氣比神宮や敦賀赤レンガ倉庫などの観光地を巡るのでポタリングにぴったり。
・春は桜並木の下を走ることができる。

☺ 隠れスポットであろう桜がある堤防を走行できて大満足。

☺ 氣比神宮の鳥居を眺めながらお団子を食べたのが、とてもいい思い出になった。

美浜町

○ルートのポイント（R4年度ルート、R5. 12月予定）
・JR美浜駅からスタートする約22kmのルート
・田んぼ道や林道など、自然の中を自転車で走る楽しさを感じることができる。
・cafe MIROKUではジビエ料理やラテアートが味わえ、道の駅はまびよりでは地元のお土産が購入できる。

☺ 高台から田園風景と若狭湾を一望できたのが印象に残った。

☺ 登りもそれほど急ではなく、楽に走ることができた。春や秋は田んぼがきれいだと思う。

若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）の取り組み

福井工業大学
Fukui University of Technology
建築土木工学科：吉村朋矩
デザイン学科：近藤晶

若狭湾サイクリングルート看板サイズの検証

福井県土木部道路保全課と福井工業大学デザイン学科近藤研究室の協働で、若狭湾サイクリングルートにおける看板サイズが適正であるかどうか検証した。さらに、近藤研究室で看板の最終校正を行った。

● 看板サイズと認識時間の検証

1.前提条件

（視力）

平均的に人間は 0.1 ㎜幅の線を 254 ㎜の距離で認識できるとされている。文字は複数の線から構成されており、おおよそ縦横５本程度の線から構成されていると考えると、１㎜の文字を 254 ㎜の距離で認識できると推測できる。これは株式会社ジャストコーポレーションが「視認距離別も見やすい文字サイズ」として示している「文字の大きさ（㎝）×250＝判読距離（cm）」の関係とほぼ同じである。

出典：奥澤康正,「ぎもんしつもん目の辞典」,東山書房

2.理想的な看板サイズ

ｘｍ 離れている際に認識できる文字の横幅を ｙ ㎜とする。この時、1㎜の文字を 254 ㎜の距離で認識できることより、

0.254：1＝ｘ：ｙ　ｘ＝0.254ｙ (1)

時速 20km/h つまり 5.5m/s のとき 5 秒前に判読するためには

5.5×5＝27.7 (2)　⇒　27.7mの距離が必要である。

したがって、理想的な看板における文字の大きさは(1)(2)より

27.7＝0.254ｙ　y≒109.3 ㎜ (3)

つまり、20km/h において 5 秒前に看板を認識するためにはおよそ 109.3 ㎜の文字サイズが必要であることが分かる。以上の結果から看板のサイズを算出する。看板全体での余白を考慮すると、時速 20km/h の走行時、5 秒前に看板中の矢印 1 文字を認識するために理想的な看板サイズは 幅146mm 以上と考えられる。

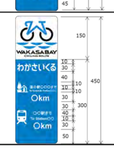
3.設置予定サイズの認識時間

看板全体の余白から文字サイズを求め、看板を認識するための距離と時間を求めた。

（150㎜幅の場合）認識するために必要な距離：28.58m　認識する時間（時速20kmを想定）：5.19秒前

（200㎜幅の場合）認識するために必要な距離：38.10m　認識する時間（時速20kmを想定）：6.92秒前

● 福井県より示されたレイアウト案

種類	レイアウト	設置場所	速度帯
分岐案内		交差点分岐部から約10m手前の地点	10~20km/h
分岐予告案内		交差点分岐部から約200m手前の地点	20km/h程度
分岐後案内		交差点分岐後の分岐部から10m程度離れた地点	10~20km/h
単路部案内		ルート分岐しない直線部に適宜(5kmに1箇所程度)	20km/h程度

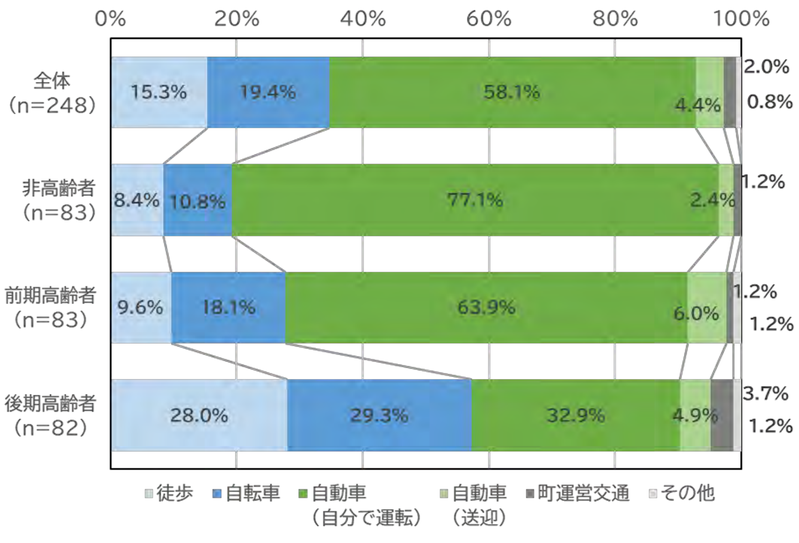
（共通条件）
- サイクリストに向けた看板
- 全種類　幅150㎜
- 設置高　1500㎜程度（地表から看板上端まで）
- 道路からの離隔に応じて、幅200㎜、高さ600㎜に拡大を予定

● 近藤研究室による最終校正案

基本的にユニバーサル書体であるUD新ゴを選定し、文字数によってコンデンス体（縦長）のUD新ゴコンデを選定する方針。欧文フォントは新ゴ系と親和性の高いDINを用いて全体がニュートラルなイメージとなるようにしている。「わかさいくる」の和文は、仮フォント使用のため赤の斜線入で表記

福井県高浜町の住民を対象とした移動に対する価値観に関する研究

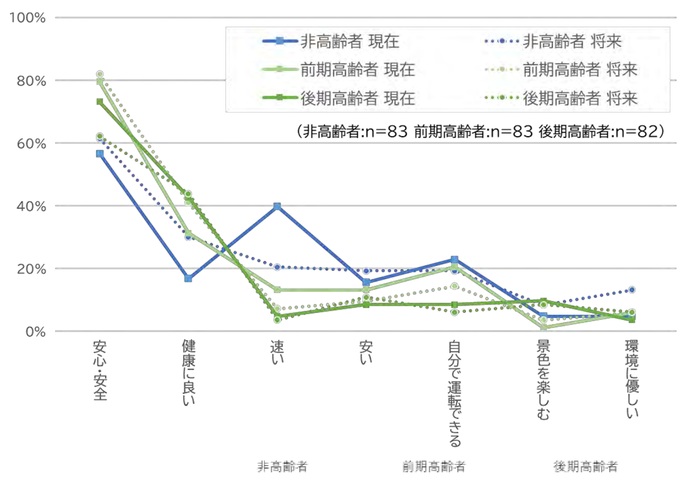
福井県高浜町総合政策課と福井工業大学建築土木工学科吉村研究室の協働で、社会情勢等が変化していくなかで、多様化する移動ニーズや価値観の変化に対応していくための移動に関する住民の価値観についての知見を得ることを目的に調査を実施した。



	アイテム	カテゴリー	数量	スコア	レンジ	偏相関係数
個人属性	性別	男性	104	0.164	0.285	0.086
		女性	142	-0.120		
	年代	非高齢者	83	0.236	0.781	0.195
		前期高齢者	82	0.268		
		後期高齢者	81	-0.513		
	歩行の状態	問題ない	210	0.132	0.900	0.174
		不安・困難	36	-0.768		
	外出頻度	毎日	146	0.272	0.723	0.200
		週3-6日	82	-0.450		
		週2回以下	18	-0.157		
移動において重視する項目	速い	重視する	48	0.552	0.685	0.119
		重視しない	198	-0.134		
	安い	重視する	216	-0.467	0.532	0.153
		重視しない	30	0.065		
	自分で運転できる	重視する	43	0.107	0.130	0.109
		重視しない	203	-0.023		
	健康に良い	重視する	75	-0.369	0.531	0.143
		重視しない	171	0.162		
	環境に優しい	重視する	11	-0.848	0.887	0.112
		重視しない	235	0.040		
	景色を楽しむ	重視する	13	-0.193	0.203	0.031
		重視しない	233	0.011		
	安心・安全	重視する	172	0.036	0.119	0.028
		重視しない	74	-0.083		
町の交通政策への賛同の有無		賛同できる	201	0.093	0.507	0.029
		賛同できない	45	-0.414		

n=246

軸の重心	自動車	0.411	的中率：75.6% 相関比：0.289
	徒歩・自転車 町運営交通	-0.700	



	非高齢者 現在	非高齢者 将来	前期高齢者 現在	前期高齢者 将来	後期高齢者 現在	後期高齢者 将来
安心・安全	56.6%	61.4%	79.5%	81.9%	73.2%	62.2%
健康に良い	16.9%	30.1%	31.3%	41.0%	42.7%	43.9%
速い	39.8%	20.5%	13.3%	7.2%	4.9%	3.7%
安い	15.7%	19.3%	13.3%	9.6%	8.5%	11.0%
自分で運転できる	22.9%	19.3%	20.5%	14.5%	8.5%	6.1%
景色を楽しむ	4.8%	8.4%	1.2%	3.6%	9.8%	8.5%
環境に優しい	4.8%	13.3%	6.0%	6.0%	3.7%	6.1%
P値	0.047		0.557		0.939	
判定	*					

「速度が遅くても着実に移動でき安全で自由度の高いグリーンスローモビリティや健康にも良い自転車・シェアサイクルといった移動手段のニーズが将来的に高まっていく」可能性があると考えられる。

※独立性の検定　*：5%有意

【普段利用している移動手段と影響を与える要因】

☑ 非高齢者と前期高齢者は同様の傾向を示し、後期高齢者は徒歩や自転車を利用する割合が57.3%

☑ 移動手段に影響を与える個人属性の要因として、歩行に関する健康状態や年代、外出頻度が挙げられた。

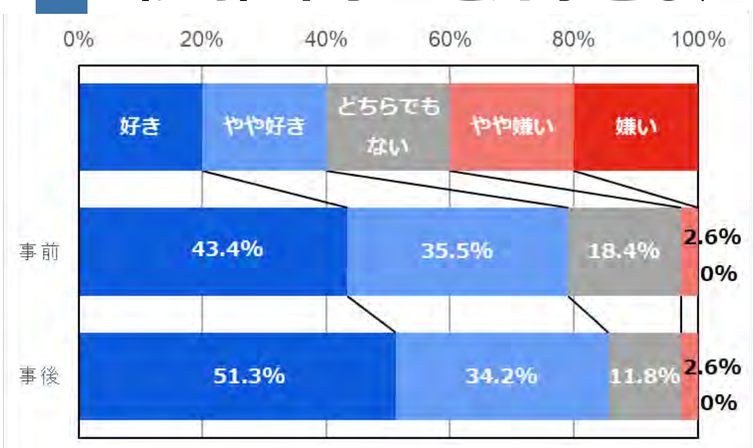
【移動に対する価値観に関する意識の変化】

☑ 非高齢者の現在の価値観と将来（概ね10年後）の価値観で統計的に有意な差が確認できた。

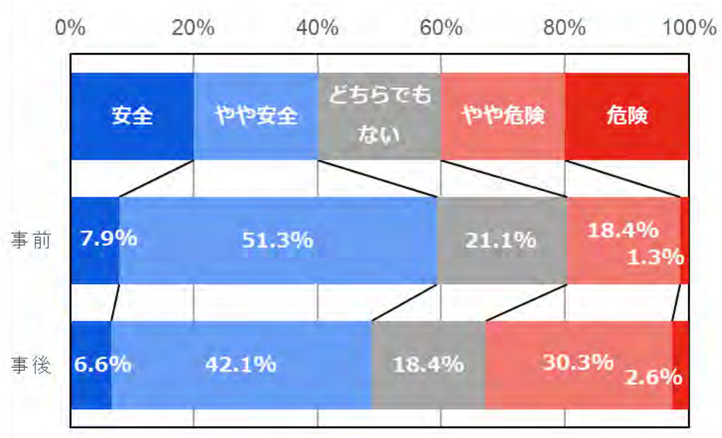
☑ 加齢に伴い安心・安全な移動の重みは維持したまま、移動に要する時間（速い移動）の重みは低下する一方、健康・環境の重みは増加していく。

（参考）中学生を対象としたSDGｓまちづくり学習の展開－福井県鯖江市の事例－

鯖江商工会議所、吉村研究室、鯖江市東陽中学校との協働

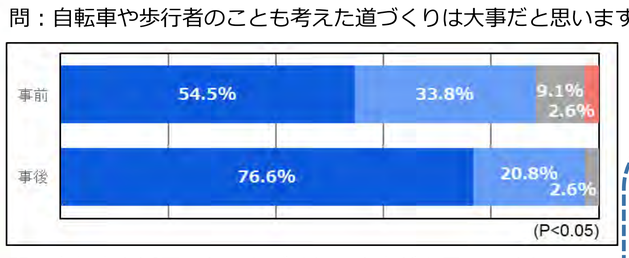


図ー自転車によるまち巡りの嗜好度（学習体験前後での比較）

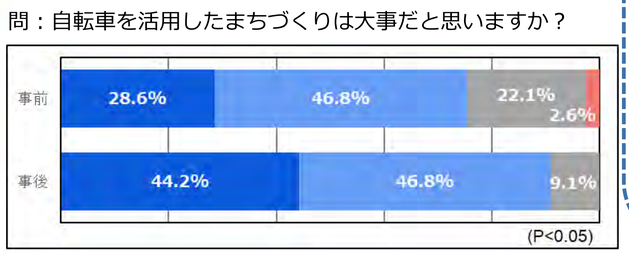


図ー自転車の立場からみた市内道路の安全度（学習体験前後での比較）

問：自転車や歩行者のことも考えた道づくりは大事だと思いますか？



問：自転車を活用したまちづくりは大事だと思いますか？



道路環境の改善を図り、自転車にとって安全だと思える環境を整えていくことで、まちへの関心や愛着を高め、将来的には自動車による移動の低減につながり、まちの魅力と安全性が高まっていくと考える。